

ビワ生育情報

千葉県
平成28年7月号

最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成27年7月から平成28年6月までの月別の気象は表1に示した。月平均気温は、平成27年7月は平年を上回り、8月～10月は平年を下回った。平成27年11月～平成28年6月は平年を上回った。この1年間の平均気温は16.2℃で平年より0.5℃高く、温暖な年であった。

時期別の気象とビワの生育状況を振り返ると、平成27年の梅雨明けは7月10日頃で平年より11日早く、梅雨明け後から夏の間は平年より低く推移したため、花房の発現は平年よりやや早かった。一方、収穫直後の日照時間は長かったため、花房の着生率は平年より高かった。関東に接近した台風は1個あったが、産地への影響はほとんどなかった。冬の間は気温が高く、開花の進みは早かった。1月下旬に寒波があり、幼果が寒害を受ける最低気温-3.0℃以下の日が2日あったため、寒害は平年より多かった。果実の生育は、開花期以降の気温が高く推移した影響で、平年より早く進み、収穫盛期は平年より8～9日、前年より1～5日早かった。

表1 平成27年7月～平成28年6月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H27	7	24.5	24.4	24.4	297	173	55	208	175	203
	8	25.7	25.9	25.5	180	133	62	197	220	213
	9	22.0	22.9	21.7	449	227	122	129	146	180
	10	17.9	18.0	18.1	93	258	305	185	137	141
	11	14.2	13.3	13.8	237	144	67	125	144	130
	12	10.1	8.5	7.6	102	94	131	147	166	195
H28	1	6.6	5.9	6.0	58	88	120	141	169	131
	2	7.7	6.4	6.4	99	102	89	150	151	167
	3	9.8	9.4	10.3	165	184	195	149	157	199
	4	15.4	13.9	13.8	198	172	167	126	172	130
	5	18.6	17.8	18.9	142	179	74	218	177	179
	6	21.0	20.8	20.4	273	246	229	137	133	134
平均/計		16.2	15.7	15.6	2,293	2,000	1,616	1,912	1,947	2,002

平年：昭和61年～平成27年の平均

本年度産果実の特徴

1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月21日、5月25日、5月29日、「大房」が5月29日、5月30日、6月3日、「田中」が6月5日、6月7日、6月12日であった。3品種共に、前年及び平年より収穫盛期は早かった。花房の発現はやや早く、開花の進みも早かった。寒害が多かったものの、開花期以降は気温が高く推移したため、幼果の生育は順調に進んだ。「大房」及び「田中」は、収穫始期から盛期までの期間が短く、盛期から終期までの期間が長かった。

表2 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期(月.日)			収穫終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.21	5.29	5.28	5.25	6.3	5.30	5.29	6.7	6.2
大房	5.29	6.3	5.29	5.30	6.8	6.2	6.3	6.12	6.4
田中	6.5	6.11	6.1	6.7	6.15	6.8	6.12	6.20	6.11

平年：昭和61年～平成27年の平均

2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質は表3に示した。果重は「楠」が48g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ83g、72gであった。「楠」は平年より11%下回り、「大房」は平年より4%上回り、「田中」は平年より4%下回った。

横径は「楠」が4.3cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.4cm、4.9cmであり、「楠」及び「田中」は平年を下回り、「大房」は平年を上回った。縦径は「楠」が4.9cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.6cm、5.8cmで、3品種共に平年を上回った。

果形指数は「楠」が0.88、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.96、0.85であった。3品種共に縦長の果形であった。

本年は、寒害が多かった「楠」及び「田中」は、生存した種子数が少なく、小玉傾向であったが、これら2品種と比べ寒害が少なかった「大房」は、収穫直前の日射量が多く、適度な降水があったため、十分に肥大したと考えられる。

本年の着花房率は平年より高く、寒害が多かったため、最終的な着果量は3品種共に平年よりやや少なかったものの、果樹カメムシ類の被害は少なく、主力品種「大房」は大玉傾向であったため、産地全体の収量は平年よりやや少ない程度でおさまった。

3. 糖度及び酸度

糖度は「楠」が12.9、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ11.3、11.8で、3品種共に平年より高かった。

酸度は「楠」が0.13、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.16、0.26で、3品種共に平年より低かった。

4. 食味

果実硬度は「楠」が0.51、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.58、0.54で、「楠」及び「田中」は平年よりやや軟らく、「大房」はやや硬かった。

糖酸比は「楠」が99、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ72、46で、3品種共に平年より甘味を感じやすかったため、食味は良好であった。

5. 病害虫及び生理障害の発生

本年は、収穫期までの果樹カメムシ類の活動量は少なく、産地における被害も少なかった。クワゴマダラヒトリの食害は平年よりやや多かった。病害では、がんしゅ病の発生はやや少なかった。生理障害では、5月から収穫期直前まで日差しが強く、高温の影響で、「大房」を中心に日焼け及び紫斑症の発生が多かった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果形指数		糖度(Brix)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	48	54	4.3	4.5	4.9	4.8	0.88	0.95	12.9	12.3	0.13	0.15	0.51	0.52	99	80
	青木	74	80	5.2	5.3	5.6	5.4	0.92	0.99	11.6	10.5	0.18	0.15	0.58	0.57	64	70
	平均	83	80	5.4	5.3	5.6	5.4	0.96	0.98	11.3	10.7	0.16	0.17	0.58	0.57	72	63
大房	南無谷	89	77	5.5	5.2	5.6	5.3	0.99	0.97	11.3	10.5	0.15	0.17	0.57	0.56	74	61
	暖地園研	88	83	5.5	5.3	5.7	5.5	0.97	0.97	11.0	11.2	0.14	0.19	0.58	0.58	77	59
	平均	83	80	5.4	5.3	5.6	5.4	0.96	0.98	11.3	10.7	0.16	0.17	0.58	0.57	72	63
田中	青木	70	73	4.9	5.0	5.8	5.4	0.84	0.93	11.6	11.1	0.27	0.28	0.53	0.55	43	40
	南無谷	70	71	4.9	4.9	5.8	5.5	0.83	0.90	11.2	10.1	0.28	0.32	0.55	0.57	40	32
	暖地園研	75	79	5.0	5.1	5.7	5.6	0.88	0.92	12.7	11.3	0.24	0.29	0.55	0.57	54	38
平均	72	75	4.9	5.0	5.8	5.5	0.85	0.92	11.8	10.9	0.26	0.30	0.54	0.56	46	37	

果形指数：横径／縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値
 硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度／酸度
 平均：3地区の平均、平年：昭和61年～平成27年の平均(ただし硬度は平成12年～平成27年の平均)

8月～10月の作業

8月下旬から9月下旬までがせん定及び施肥の適期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになり、10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させることができ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>